

いいね

春の気配が、やわらかく校庭を包み始めた3月6日（金）、本校では「6年生を送る会」が行われました。司会進行をする代表委員会も気合が入っています。体育館に集った子供たちの表情には、期待と少しの緊張、そして何よりも「伝えたい思い」が宿っていました。

会のはじまりを告げたのは、6年生の入場です。在校生がつくる花のアーチをくぐりながら、ゆっくりと歩みを進める6年生。お客さんとして迎えられるのは、1年生のとき以来でしょうか。どこか照れくさそうな表情を浮かべながらも、その顔には、確かな喜びがにじんでいました。

体育館には、拍手や笑顔、そして友達を認め合う声が広がっていきました。互いのよさを見つけ、「いいね」と伝え合う。そんな温かな空気が、会場をやさしく包んでいました。

続く各学年の発表には、それぞれの学年らしい工夫と思いが込められていました。1年生は替え歌にのせて感謝を届け、2年生は手作りの鉛筆立てを贈りました。3年生は運動会での6年生の勇姿を思い起こしながら応援団やフラッグの演技を披露し、4年生は花束と手紙に心を託しました。5年生はクイズや寸劇で会場を笑顔に包み、6年生の魅力を楽しく伝えていました。そこには、「ありがとう」を自分たちなりの形で表そうとする姿がありました。

やがて、会場の空気が大きく変わる瞬間が訪れます。6年生による木遣り太鼓です。一打ごとに体育館の床を伝って響く音は、これまでの努力と仲間との時間の積み重ねそのものであり、言葉を超えて心に届くものでした。

続く「情熱大陸」の合奏では、音が空間を満たし、リズムが人の心を解き放っていきます。発表がすばらしい、感動的である、心に届いた。その瞬間に、自然と拍手が起こります。6年生の演奏に対して、「すばらしい」「ブラボー」「いいね」といった称賛の声が広がり、アンコールの拍手はいつまでも鳴りやみませんでした。



そのときです。気がつけば、在校生が自然とステージへと集まり、6年生とともに手拍子をし、身体を揺らし、踊り始めていました。学年の枠も、立場の違いも超えて、誰もが同じリズムの中にいる。ただ「一緒にいたい」「この時間を分かち合いたい」という思いだけが、子供たちを動かしていました。

会場のボルテージは最高潮に達し、体育館全体が一つの大きな「渦」となりました。その中心にいた6年生の姿は、まさに学校のリーダーそのものであり、その背中は何より雄弁に「つながることの価値」を語っていました。



そして、全校合唱「ビリーブ」。6年生の歌声には、6年間の歩みと仲間との記憶、そして未来への希望が込められていました。その響きは、在校生の心に静かに届き、確かに「次へ」と受け渡されていきます。天井を見つめ、精一杯に歌う6年生の姿に、込み上げてくるものがありました。



感謝とお礼の気持ちに満たされた「いいね（音）」の余韻が、体育館に静かに残りました。同時に、本当に6年生が卒業してしまうのだなという、寂しさを感じる瞬間でもありました。



3月24日（火）は、第19回卒業式です。

卒業生の門出を、在校生、保護者、地域の皆様と心から祝福したいと思います。